

令和3年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

豪雪地での周年営農型農業のモデル経営体として産地をけん引

○氏名又は名称 有限会社 小澤農場（代表 小澤 実）

○所在地 新潟県南魚沼市

○出品財 経営（水稲、すいか、しいたけ ほか）

○受賞理由

・地域の概要

南魚沼市は、新潟県南部に位置し、冬は積雪が3mに達する豪雪地であり、周囲を山々に囲まれた盆地で夏は高温となるが、昼夜の寒暖差が大きく良食味米の生産には適しており、ブランド米「魚沼産コシヒカリ」の産地として有名である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

小澤農場は水稲単作経営であったが、昭和54年にすいか栽培を取り入れて経営の複合化に取り組み始め、平成6年にはしいたけ菌床栽培も導入し、周年栽培体制の確立と通年雇用型ビジネスモデルを実現した。令和元年の経営概要は、作付面積が水稲18.5ha、すいか6.3ha、カリフラワー1.2ha、菌床しいたけ21万菌床で、役員5名、常時従事者17名、売上は2億6千万円である。

・受賞者の特色

（1）豪雪地での周年営農体制の確立

小澤農場では魚沼コシヒカリ、八色西瓜、八色しいたけ等の地域ブランド品目の生産に取り組み、周年営農体制を確立している。農地の集積・集約化をはじめ、新たな作業機械や栽培技術の導入に積極的で、各部門の生産量はそれぞれトップクラスとなっており、地域農業を牽引するリーダー的法人経営体である。

（2）就業環境整備による従業員の定着・育成

組織マネジメントに部門担当制を導入し、代表取締役が経理管理、長男が全体総括、次男が水稲部門、その他部門は従業員の中から担当を選出し、それぞれが役割分担しながら責任体制を明確にした経営を展開している。また、部門担当者会議で運営方針や営農計画が策定されるほか、定期的に各部門の作業進捗状況の確認や労力調整等が行われ、生産効率の改善に努めている。このように従業員も主体的に経営に参画することでリーダーとしてのスキルアップが図られている。

・普及性と今後の発展方向

南魚沼市でも今後は高齢化等によりこれまで以上に農地集積・集約が進むと想定されるため、小澤農場では、より効率的に作業が行える高性能機械や最新の技術を導入していくとともに、規模拡大に対応する施設の整備を図り、農地を受け入れることで地域農業の維持・発展に貢献していきたいと考えている。